

ご挨拶

日本インターンシップ学会第 27 回大会は、熊本学園大学を開催校として開催いたします。本大会のテーマは、「インターンシップの社会的価値とは～地域社会・経済への貢献」をテーマにインターンシップが持つ社会的な価値や意義を職業統合的学習（WIL）の観点から議論を深めてまいりたいと存じます。前回大会のテーマ「社会と共に学び、成長する」を踏まえ、さらに、グローバル化する社会の変革を見据えて、海外企業進出による地域の社会・経済の変容や海外の大学生と地域社会をつなぐインターンシップの効果や可能性について議論を深めていきたいと考えています。

第 1 日目の基調講演では、熊本地震から 10 年という節目に際し、当時の熊本学園大学学長の幸田亮一氏（現名誉教授）を迎え、大学における地域貢献の事例を紹介いただきます。2016 年の熊本地震では、熊本学園大学も大きな被害を受けましたが、被災した地域住民を学内に受入れ、学生と共に教職協働で避難所を運営してきました。後に「熊本学園モデル」と呼ばれた災害時における大学と地域とのかかわり方を皆様と共に考えたいと思います。

シンポジウムでは、世界の半導体トップ企業である台湾の TSMC（熊本工場：JASM）の進出に伴いグローバル化する地域社会の変遷の現状について、パネリストとして、川田晃仁氏（熊本商工会議所）、奥田奈那氏（株式会社鶴屋百貨店）、謝翔屹氏（熊本トヨタ自動車株式会社）、濱本伸司会員（一般社団法人フミダス）の 4 名にご登壇いただき、商工会議所、受入先企業、コーディネーター、台湾の大学生の方々による実践事例をご紹介します。熊本商工会議所が主催となって台湾の 7 大学が連携し、ビジネスの発展を目指す企業と熊本でチャレンジしたい台湾の大学生をマッチングするインターンシップが実施され、熊本への就業にもつながっています。インターンシップの社会的価値と貢献について、参加者の皆様と議論する機会としたいと考えています。

これらに先立つ開催校イベントでは、学生が登壇し、インターンシップ・PBL の事例紹介を行います。

参加者の皆様にとって有意義な学びと研鑽の機会となる 2 日間となることを願い、挨拶とさせていただきます。

最後になりますが、今回の大会は多くの皆様のご協力により実現することができました。この場をお借りいたしまして、衷心よりお礼申し上げます。

日本インターンシップ学会 第 27 回大会
大会実行委員長 嶋田 文広（熊本学園大学）
大会実行委員会 委員 一同

大会プログラム（1日目）9月12日（土）

10:30～	熊本学園大学新 1 号館みらい：1 階スチューデント コモンズ
	受付開始
11:00～12:00 (60 分)	《開催校 プレイベント》 新 1 号館 2 階 121 教室 WIL の取り組み事例紹介—クマガクのインターンシップ・産学連携プロジェクト ①「正課科目による長期インターンシップの実践事例」：竹下 優華・中尾友香（熊本学園大学学生） ②「ときめきキャリアフェス」産学連携プロジェクト：松本歩惟・中野知夏・山口留依（熊本学園大学学生） 司会：遠竹ほのか 松ヶ角彩香（熊本学園大学学生）
12:00～	昼食休憩 ・1 階スチューデントコモンズと 2 階のフロアを開放
13:00～13:30 (30 分)	《開会式》 121 教室 会長講話 亀野 淳会員（日本インターンシップ学会会長／北海道大学） 開催校挨拶 林 裕 氏（熊本学園大学 学長） 実行委員長挨拶 嶋田 文広会員（第 27 回大会実行委員長／熊本学園大学） 総合司会：桑畑 夏生会員（宮崎大学）
13:30～14:00 (30 分)	《基調講演》 121 教室 「熊本地震から十年～私学の避難所運営の試み「熊本学園大学モデル」～」 講師：熊本学園大学 名誉教授 元学長 幸田 亮一 氏
14:00～14:15	休 憩
14:15～15:55 (100 分)	《シンポジウム》 121 教室 テーマ：「地域社会・経済への貢献につなげるインターンシップを考える」 シンポジスト： 熊本商工会議所 商工観光国際部 部長 川田 晃仁 氏 株式会社鶴屋百貨店 人事教育グループ 奥田 奈那 氏 熊本トヨタ自動車株式会社 車両事業部 謝 翔屹 氏 一般社団法人フミダス 代表理事 濱本 伸司 会員 モデレーター：古賀 正博会員（九州インターンシップ協議会）
15:55～16:10	休 憩
16:10～17:15 (65 分)	《2025 年度 高良記念研究助成報告》 121 教室 「デザイン思考を取り入れたインターンシップ合同振り返りワークショップによるキャリア意識の変容とリフレクション能力の向上に関する研究」 発表者：宮崎 愛弓会員（目白大学） 「実践型インターンシップにおける社会人基礎力自己評価の低下現象－活動報告書のテキスト分析による検討－」 発表者：新村 拓也会員（宮崎公立大学） 《2026 年度 高良記念研究助成授賞式》 司会：上岡 史郎会員（学会表彰委員会委員長/目白大学短期大学部）
17:15～18:00 (45 分)	《会員年次総会》 進行：学会事務局
18:15～20:00 (105 分)	《懇親会》 7 号館 1 階学内レストラン 会長挨拶：亀野 淳会員（日本インターンシップ学会会長） 第 28 回大会開催校挨拶 司会：中野知夏・山口留依・松本歩惟（熊本学園大学学生）

大会プログラム（2日目）9月13日（日）

9:00	受付開始			
会 場	A会場 131 教室	B会場 132 教室	C会場 133 教室	D会場 141 教室
テーマ	教育哲学	学修成果①	教育プログラム①	中間組織・企業①
司 会	井本 浩之（西九州大学） 伊藤 一統（宇部フロンティア大 学短期大学部）	牛山 佳菜代（目白大学） 川上 あき（北海道大学）	原 一将（札幌国際大学） 岩井 貴美（近畿大学）	古田 克利（法政大学） 宮田 弘一（静岡産業大学）
9:30～10:00 第1セッション	A-1 渋沢栄一の『論語と算盤』とインターンシップ-インターンシップの意義と役割について- ○松尾哲也（大阪大学）	B-1 インターンシップ参加を促進する「企業を見る観点」の育成アプローチ-マッチポイントの可視化と「仮の軸」を用いたスモールスタートの有効性- ○菊原武史（駒澤大学）	C-1 中規模大学における実務型海外インターンシップの大学主導モデル構築と運用-阪南大学におけるベトナムインターンシップ実践事例- ○三木隆弘（阪南大学）	D-1 専門職大学の臨地実務実習ガイドラインから考える知的財産権処理方針とその対応 ○野本義弘（東京情報デザイン専門職大学）
10:05～10:35 第2セッション	A-2 職業統合的学習（WIL）の新たな可能性を探る-三好信浩の教育論を手がかりとして- ○山口圭介（玉川大学）	B-2 第三段階教育におけるビジネス分野の学修とキャリアに関する日韓比較 ○江藤智佐子（久留米大学）*1	C-2 職業統合的学習（WIL）の職業適性能力効果に関する一考察-航空業界客室乗務員に特化した実践的職業訓練経験を事例に- ○高橋修一郎（昭和女子大学） ○石村友二郎（文京学院大学）	D-2 長期実践型インターンシップのこれまでと研究の蓄積 ○今永典秀（コー・イノベーション大学）*3
10:35～10:50	休 憩			
テーマ	後期中等教育	学修成果②	教育プログラム②	中間組織・企業②
司 会	高橋 秀幸（北海道武蔵女子短期大学） 福岡 哲朗（博多工業高等学校）	牛山 佳菜代（目白大学） 川上 あき（北海道大学）	原 一将（札幌国際大学） 岩井 貴美（近畿大学）	古田 克利（法政大学） 宮田 弘一（静岡産業大学）
10:50～11:20 第3セッション	A-3 専門高校におけるインターンシップの学習効果とキャリア形成に与える影響-インターンシップ実習の内容・機会に焦点をあてて- ○渡邊和明（鹿児島大学）	B-3 コー・オープン教育における生成 AI を用いた週報の感情分析によるドロップアウトや実習評価変動の調査 ○瀬高昌弘（東京工科大学）*2	C-3 インターンシップにおける「受入実践知」の概念構築-専門職実習における長期受入の知見を手がかりとして- ○平川 将綺（北陸先端科学技術大学院大学博士後期課程）	D-3 長期インターンシップにおける受入企業の評価観点に関する探索的研究 ○松林康博（コー・イノベーション大学）*4
11:25～11:55 第4セッション	A-4 高等専修学校における職業統合的学習に関する研究 ○吉本圭一（東京情報デザイン専門職大学客員教授）	B-4 長期にわたる地域活動による地域に対する認識の変化-地域系学部の新年度教育に関する一考察- ○眞鍋和博（北九州市立大学）	C-4 地域プロスポーツクラブとの協働による地域共創型 PBL の構築と実践-多主体連携による学習環境の構築過程を中心に- ○上岡史郎（目白大学短期大学部）	D-4 インターンシッププログラムにおける「ごだわり」と「すり合わせ」-愛知中小企業家同友会プログラム改革の事例を通して- ○手嶋慎介（愛知東邦大学） ○見目喜重（豊橋創造大学）

【共同研究者】

*1 吉本 圭一（東京情報デザイン専門職大学客員教授）

*2 大原 延恵（東京工科大学）・天野 直紀（東京工科大学）

*3 松林 康博（コー・イノベーション大学）

*4 今永 典秀（コー・イノベーション大学）

12:05～12:35	【閉会式】 会長挨拶 第28回開催校挨拶 大会実行委員長挨拶	新1号館2階121教室 亀野 淳会員（北海道大学） 嶋田 文広会員（熊本学園大学） 司会：桑畑 夏生会員（宮崎大学）
-------------	---	---

※大会プログラムは、7月22日時点のものです。状況や都合により変更になる場合がございますので、ご了承ください。

最新版のプログラムは、学会大会ウェブサイトをご覧ください。

会場マップ^o (新1号館みらい)

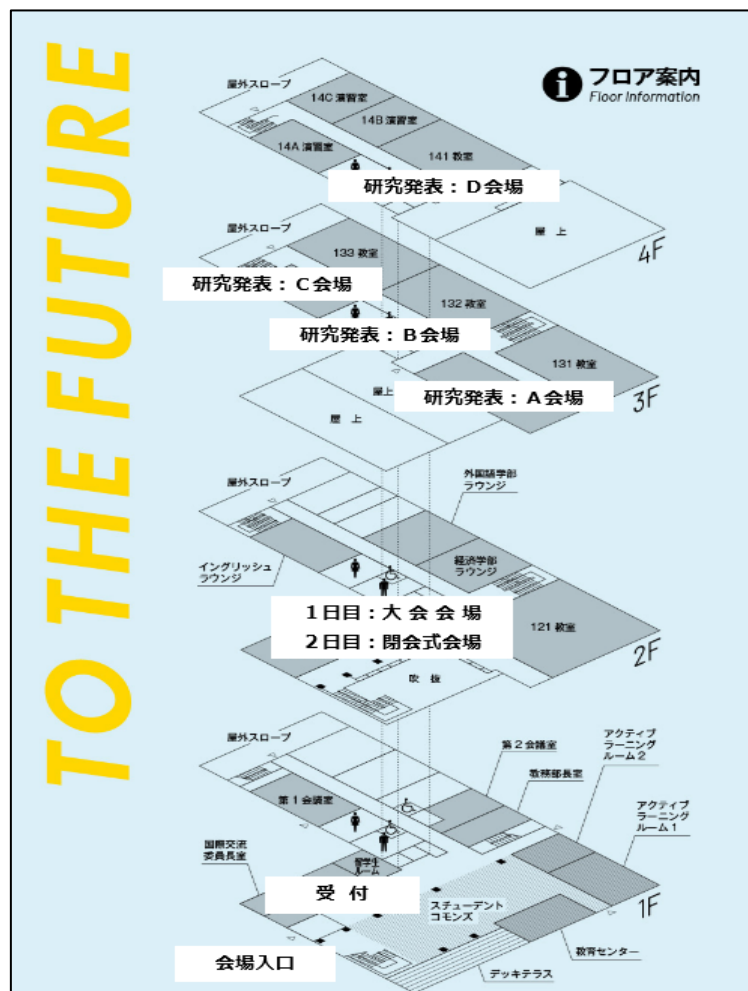
会場

熊本学園大学 新1号館みらい 1階～4階

熊本市中央区大江 2 丁目 5-1

<https://www.kumagaku.ac.jp/daigaku/shisetsu/future>

➤ 学内マップ（新 1 号館みらい・7 号館学内レストラン）



参加の皆様へのお願い

- 自然災害等の影響による大会中止の判断について
自然災害等による大会の中止及び時間変更、開催方法変更などの緊急連絡については参加申込者へメール及び Peatix 経由でお知らせいたします。
- Wi-Fi の提供について
eduroam 以外の学内 Wi-Fi の利用はできませんので、必要な方は各自ご用意をお願いします。
※eduroam は教育機関や研究機関の間でキャンパス無線 LAN の相互利用を実現する、国際的なネットワークロギング利用の仕組みです。
- 昼食について
両日とも昼食の用意はございません。学内にコンビニ（ローソン）、正門の向かいにスーパーマーケットや飲食店などがありますので、そちらをご利用ください。
- クロークについて
大きなお荷物は受付にてお預かりし、受付奥で保管いたします。お預かりできる時間は、1 日目は懇親会終了まで、2 日目は閉会式終了までとなります。ただし、貴重品はお預かりできませんので、ご了承ください。
- 休憩場所と禁煙について
1 階スチューデントコモンズと 2 階フロア（通路横）を開放しますので、適宜、ご利用ください。
また、会場（新 1 号館）は全館禁煙となっていますので、ご協力ください。
- その他ご不明な点がありましたら、大会実行委員会・運営スタッフにお尋ねください。

問合せ・連絡先

大会に関する問い合わせは、**原則メール**でお願いします。

■大会に関する問合せ

日本インターンシップ学会第 27 回大会実行委員会 実行委員長 嶋田文広
e-mail:jsi27th@gmail.com

■研究発表に関する問合せ

研究発表・要旨集録担当 e-mail.jsi27r@gmail.com

開催校 プレイベント

WIL の取り組み事例紹介—熊本学園大学のインターンシップ・産学連携プロジェクト

熊本学園大学商学部ホスピタリティ・マネジメント学科は 2005 年に設立、開設当初から正課科目「インターンシップ（選択必修）」として設置された。2007 年から 3 ヶ月間（480 時間・12 単位）のインターンシップを実施し、定員 80 名中、毎年度 60 名程が参加している。現在まで 18 年間継続している。継続している理由及び特徴は、①教職協働（担当は学科教員と教職・実習課職員）、②地元企業との連携、③教育としてのインターンシップ、という 3 つが組織的に制度化されながら運営されている。2023 年度日本インターンシップ学会榎本記念賞「最も秀逸な事例」を受賞。

今回の事例紹介①では、長期インターンシップに参加した 2 名の学生（3 年生）の事例発表を行います。

事例紹介②では、2025 年度「人生 100 年時代の社会人基礎力育成グランプリ全国決勝大会」において、「人生 100 年時代の社会人基礎力 準大賞 および 協賛企業／団体賞」を受賞した嶋田ゼミ 4 年生の産学連携プロジェクト（PBL）の事例発表を行います。

事例紹介①：熊本学園大学 竹下優華・中尾友香（熊本学園大学学生）

- ◆ 「ホスピタリティ・マネジメント学科正課科目：インターンシップ（3 ヶ月間）の実践事例」
事例 1：「有限会社松屋旅館」 事例 2：「株式会社 RKK メディアプランニング」

事例紹介②：熊本学園大学 松本歩惟・中野知夏・山口留依（熊本学園大学学生）

- ◆ 「ときめきキャリアフェス」産学連携プロジェクト」
～通常の就職活動では得られない機会を届けるイベントを創る～

司会：遠竹ほのか 松ヶ角彩香（熊本学園大学学生）

基調講演

「熊本地震から十年～私学の避難所運営の試み「熊本学園大学モデル」～」

熊本地震から10年という節目に際し、当時の熊本学園大学学長の幸田亮一氏（現名誉教授）を迎え、大学における地域貢献の事例を紹介いただきます。2016年の熊本地震では、熊本学園大学も大きな被害を受けましたが、被災した地域住民を学内に受入れ、学生と共に教職協働で避難所を運営してきました。後に「熊本学園モデル」と呼ばれた災害時における大学と地域とのかかわり方を皆様と共に考えたいと思います。

日 時：2026年9月12日（土）13:30～14:00（30分）

場 所：熊本学園大学 新1号館みらい 2階 121教室

講 師：熊本学園大学 名誉教授 元学長 幸田 亮一 氏

司 会：嶋田 文広会員（熊本学園大学）

シンポジウム

「地域社会・経済への貢献につなげるインターンシップを考える：熊本&台湾の視点から」

世界の半導体トップ企業である台湾のTSMC（熊本工場：JASM）の進出に伴いグローバル化する地域社会の変遷の現状について、パネリストとして、川田晃仁氏（熊本商工会議所）、奥田奈那氏（株式会社鶴屋百貨店）、謝翔屹氏（熊本トヨタ自動車株式会社）、濱本伸司会員（一般社団法人フミダス）の4名にご登壇いただき、商工会議所、受入先企業、コーディネーター、台湾の大学生の方々による実践事例をご紹介します。TSMCの熊本進出に伴い、台湾から移住者が増加し、熊本では活況を呈しています。これをチャンスと捉え、熊本商工会議所が主催となって台湾の7大学が連携し、ビジネスの発展を目指す企業と熊本でチャレンジしたい台湾の大学生をマッチングするインターンシップ（2週間・2カ月・5カ月）が実施され、熊本への就業にもつながっています。インターンシップの社会的価値と貢献について、参加者の皆様と議論する機会としたいと考えています。

日 時：2026年9月12日（土）14:15～15:55（100分）

場 所：熊本学園大学 新1号館みらい 2階 121教室

モデレーター：古賀正博会員（九州インターンシップ推進協議会）

【シンポジスト】

◇ 熊本商工会議所 商工観光国際部 部長 川田 晃仁 氏

1996年入所。入所後、中小企業相談部経営相談課長、総務部次長などを経て、2025年より商工観光国際部長を務める。熊本商工会議所では、台湾大手半導体メーカーのTSMCの進出を契機に台湾とのビジネスや交流が広がる中で、台湾と県内企業の新たなビジネスを促進するために、台湾の大学と連携し台湾の大学生のインターンシップ事業を2023年にスタート。

現在台湾の日本語学科がある7大学（東呉大学、淡江大学、台中科技大学、靜宜大学、長榮大学、輔仁大学、文藻外語大学）と提携し、これまで86人の大学生のインターンシップを実施している。

◇ **株式会社鶴屋百貨店 人事教育グループ 奥田 奈那 氏**

2019 年入社。入社後、リビング生活部台所用品売場担当を経て、2020 年より人事教育グループに配属。台湾企業 TSMC の進出を機に、台湾の観光客やお客が増えてくる中で、2023 年から台湾の大学生を受け入れるインターンシップをスタート。

これまで台湾からの大学生を 27 名インターンシップで受け入れ、台湾の大学生たちの教育や就職に向けてのサポートを行っている。

◇ **熊本トヨタ自動車株式会社 車両事業部 謝 翔屹 氏**

新竹出身。台北にある東呉大学日本語学部に入學後、4 年生の時に熊本商工会議所が実施するインターンシップを知る。元々日本に興味があり、車好きでもあったため 2024 年の 1 月に熊本トヨタ自動車にて 2 週間のインターンシップに参加。その後大学を卒業し兵役などを経て 2025 年 5 月に熊本トヨタ自動車に入社。現在は車両事業部に籍を置き、台湾人向けの販売促進活動や営業スタッフの通訳などを行っている。

◇ **一般社団法人フミダス 代表理事 濱本 伸司 会員**

日本インターンシップ学会会員。大学卒業後、メディア制作や首長秘書、企業コンサルなどを経て、2012 年に一般社団法人フミダスを設立。中長期実践型インターンシップの実施や、熊本県内外の大学や高校で地域企業との連携授業のコーディネートなどを実施している。

熊本商工会議所が実施している台湾の大学生インターンシップ事業ではコーディネーターを務め、企業や学生の研修や、台湾の大学・大学生と県内企業をつなぐ仕組みづくりを進めている。